



Star ☆☆☆
EXPRESS

11月の予定

10月28日 10月度授業料引落日
(11月8日 引き落とし予備日)

11月3日 近畿小中学生珠算競技大会

11月23日 そろばん大阪一決定戦

11月28日 全国計算競技大会

☆11月4日～11月18日までの火曜日と木曜日の午後7時20分～8時まで、大阪一決定戦とクリスマスカップのいずれか一つでも出場する選手向けに読上算の特別練習を行います。時間のある人はもちろん、時間のない人も何とか時間を作って参加しましょう。

そろばん大阪一決定戦特別練習

11月13・20日 5時～7時

★11月3日近畿大会について★

会場は守口門真商工会館（国道163号線沿い。中央環状線を越えてすぐ左手にあります。京阪電車「門真市」駅下車15分）です。往復とも引率します。詳しくは授業中に連絡します。朝8～9時に集合、夕方解散で、昼食の準備をしておいて下さい。

★11月23日大阪一決定戦について★

会場は大阪商工会議所、午後からの大会です。早めの昼食を済ませて集合となります。往復とも引率します。詳

しくは授業中に連絡します。

◎10月12日午前、義母が亡くなりました。13・14日の両日にわたって、臨時休講とさせていただきますが、皆様には突然のことで大変ご迷惑をおかけしました。申し訳ありませんでした。

12日の授業を休講にするかどうかでずいぶん迷いましたが休講連絡を全体に行き渡らせるには時間がなかったことと、12日に出席する生徒に直接休講連絡を渡すほうが確実だということになり、通常授業を行いました。

12日の最終授業の終了間近、「お友達に明日・明後日のお休みの連絡を回してくれる人は申し出てください」という私の呼びかけに多くの皆さんが応じてくれました。中には一度帰宅してから再度教室に来て「〇〇さんにも連絡しておきます」と申し出ってくれる生徒もいました。授業終了後、数時間をかけて手伝いの先生方と電話をかける予定でいましたが、連絡が必要な生徒の内、半数近くを12日出席の生徒達が担当してくれたお陰で、短時間で終了することができました。また、電話口で連絡係を申し出てくださいる保護者の皆様もいらっしやり、ずいぶん助かりました。どうもありがとうございます

た。

検定・大会の意義

10月17日の通信大会、10月24日の1～3級・段位検定に向けて、土曜日の特別練習を実施してきました。毎回、50名ほどが熱心に参加して、各自の課題に正面から向き合いました。時間が合わずに、出席したくとも出席できない生徒もいました。そんな生徒の内、家で一人でも練習できる人は問題を持ち帰って練習していましたから、潜在的にはもっと多くの生徒達が特別練習を行っていたことになります。

日常、熱心に教室で練習をして、なおかつ特別練習にも参加して、それでもなお納得がいかないのか「問題を持って帰っても良いですか」と申し出る生徒がいたり、「同じ種目ばかり練習しても良いですか」と練習メニューを自分自身で考えて実行に移す生徒の存在を見るにつけ、私は生徒達から多くのことを教わっています。

私は、検定試験や大会参加の意義の大半は、①目標を作る。②目標に向かって緻密に計画を練る。③計画を実行する。④計画を修正する。⑤修正したものを実行する、の5つの段階を経験することにあると思っています。その結果、入賞、合格といった目先の果実に幸運にも結びつくこともあります。が、果実の甘さなんていうものは、指導者の立場としてはあまり重視をしていません。

検定結果や大会成績には、本人の努力だけではいかんともしがたい他の要素も影響を与えます。隣の席に座った人と波長が合わずに集中できないこともあるでしょうし、周囲の励ましが猛

烈なプレッシャーとなって指先を凍りつかせてしまうこともあるでしょう。逆に「努力の伴わない良い結果」は人生を軽く狂わせることもあります。

ところが、先に挙げた5つの項目は、検定を受けたり大会に出るといった決断をして、そこに向かっていく大きな流れの中に身を置くことで、だれもが経験できます。この経験が実は最も大きな財産になっていくのです。

私たち指導者は、日々の指導を通じてこの5つを生徒達が経験できるように援助をしていく立場にあります。計算の仕方を教えるのも、間違いやすいパターンを生徒の頭にたたき込むのも、問題を作るのも、自分のことは自分でさせるのも、授業中のトイレを禁止するのも、靴をそろえさせるのも、言葉づかいを正常化するのも、何もかもが生徒の財産作りです。

そろばんの練習において、練習時間と技術の向上は間違いなく比例しています。ただ、比例のグラフの傾きが人によって違うのはいかんともしがたい真理であるのも確かで、いくら食べても太らない人もいれば、空気と水しか体に入れなくても悲しいことに太る体質の人がいるのと同じです。

技術が向上しても、合格点レベルに達しなければ不合格ですし、自己ベストを出しても相手がそれ以上の点数を出せば大会では勝てません。しかし、もう一方で練習すれば上達するのは事実で、目標を持って練習することで先の5つの項目を経験していくことも事実です。

秋から冬にかけて、検定や大会が目白押しです。12月のあんざんチャンピ

オン大会が大会初出場という生徒もたくさんいます。初めて暗算検定を受ける生徒も申込をしています。（申込は11月6日まで）他者との比較という観点から結果を眺めるととんでもない成績しか取れない生徒もいますが、大会や検定は、あらゆる能力と可能性を高めていく優れた教材の一つです。

ある生徒の現時点の実力で、いくら叩いてみてもビクともしない壁や、どうしがみついても乗り越えられないような高い壁にはチャレンジはさせません。良薬が劇薬になってしまうからです。ただ、「良薬口に苦し」程度の我慢と工夫で、努力した結果がそこはかとなく自分自身に跳ね返ってくることが自覚できそうな場合には、受験を勧めたり大会への参加を勧めています。

合格や入賞は、たまたま得られる「ごほうび」程度の認識で子ども達を励ましてあげてください。

◎さて、先の文章で「家での練習」についてふれましたが、家で練習できる生徒が良くて、練習しない生徒が悪いといっているのではありません。

教室には、多くの机・椅子・教材類・パソコン・仲間・先生方など、そこにしかない人や物が醸し出す「雰囲気」があります。その雰囲気がやる気を高めてくれます。一人だと「気合い」が入りづらいこともあるでしょう。

また逆に、その雰囲気が、安全速度を超えてしまってオーバースピードにさせ、ペースを乱してしまうこともあります。そんなとき、まったく環境を変えてしまうために、家で一人でペースを再構築することもあります。

要は、家で練習するタイプと、家で練習しないほうがよいタイプがあるのです。

嫌々でも準備体操のために走ると汗はかき、体はほぐれます。一定の成果はあります。しかし、そろばんは、嫌々練習すると逆効果です。動くのは指先ですが動かしているのは感情です。

また、人間のタイプは、時と場合によって変わります。

家での練習というテーマから外れませんが一つ例を挙げてみます。

とある大会前の教室での練習で、ある生徒がなかなか点数の報告に来ません。通常は、生徒達は採点が終わると答案を持って教卓に来るのですが、その生徒が来ないのです。見ると、得点を見て、あるいは計算してみた感触で納得がいかなかったのか、別の問題を出して一心不乱に練習しているのです。ペース調整をしているのでしょう。

この生徒、通常はそんなことはまずしません。私はこの生徒が生まれたときから知っていますから、そんな自発的にそろばんの練習をするタイプでないのはよくわかっています。親も家での練習はどちらかという苦手なタイプでしたから、その遺伝形質を色濃く受け継いでいるのでしょう。

しかし、その大会前は違いました。大会直前に亡くなった祖母のさまざまな儀式のため、あまり練習できなかったことは事実ですが「練習不足を言い訳にするな」という私の命令を聞いたか聞いていないのかは知りませんが、納得がいくまで種目練習を繰り返していたのです。

結果、当日は1失点で優勝。全国順位が出るのはまだ先ですが部門成績では過去の日本一の得点を超えています。

かけ算で、全問終了後、数字が乱れている問題に気づき、書き直す前に念のために見直しをするともともと違っていたのを発見したそうです。亡き祖母の見えざる手もきっと後押しをしてくれたのでしょう。

☆10月17日通信大会大阪府結果☆

通信大会とは全国各地で同一日に同一問題で大会を行い、その成績を集計して全国順位を決める大会です。

団体総合競技

◎小学生の部

2位 藤が尾小学校 4350点

3位 妙見坂小学校 4090点

個人総合競技

◎小学4年生以下の部

優勝 金本三夢 1990点

準優勝 金本大夢 1940点

2位 大内悠聖 1630点

金本愛夢 1600点

山口愛未 1590点

大内峻聖 1480点

3位 蜂谷圭将 1300点

藤野柚季 1280点

◎小学生の部

2位 永井功久 1870点

安原章太 1750点

3位 濱野恵太 1480点

読上算競技

◎小学4年生以下の部

2位 金本大夢

3位 金本三夢

読上暗算競技

◎小学4年生以下の部

優勝 金本三夢

2位 金本大夢

3位 大内悠聖

◎小学生の部

3位 永井功久

出席時間20時間以上の生徒

(10月20日までの1ヶ月)

永井功久51 濱野恵太43 金本愛夢41

窪田一誠41 金本大夢40 梅野雄太

39 桑原彩衣38 谷岡菜々子37 金本

三夢37 桑原麻衣37 山口愛未37 蜂

谷圭将34 福田陸人33 桑原唯衣33

奥田あさひ31 藤野柚季30 奥田南海

29 大内悠聖27 湊結子27 中越菜々

子27 大内峻聖26 酒井克巳26 落合

将平25 北村彩25 萩森光恵25 松下

綾乃25 鍵野佑登24 北村樹24 安原

章太24 辻尾菜々24 百田夏海24 山

園杏佳24 西島朝香23 長尾侑美23

山内星徳23 笠崎萌加22 楠田知己22

塚本裕策22 藤本早紀22 森岡賢一

22 熊田星麗21 楓まい21 今川未奈

子21 田伐志帆21 山根建太朗21 濱

野葉太20 今村妃菜20

猛スピードばく進中(PERFECT)

(初歩教材PERFECTを1ヶ月で20ページ以上進んだ生徒)

楓まい134 川崎龍一83 河田青大70

田邊美空65 越野貴也62 楓陸60

北村彩56 西本直幸44 黒木康平37

北森彩月37 古橋晴香33 平野巧32

伊藤優生30 仲谷愛花30 本間響30

西村涉利28 伊賀敬弘27 西村梨留27

森岡賢一27 中津裕貴26 森本倫才

26 中野明25 岩宗楓斗24 出口来実

24 高鋸碧23 松本心晴23 上山敬大

22 井上葵実21 木本悠月20

猛スピードばく進中(瞬達)

(初歩教材「瞬達」を1ヶ月で5ページ以上進んだ生徒)

谷岡菜々子18 西島朝香18 中越菜々子18 奥田南海15 湊結子15 山根建太朗15 岡田遥11 阪本新9 北森遥弥8 中越菜摘8 井手亮太7 若林聖和7 石上香菜子6 木村征爾6 古川和佳6 山崎陽菜6 井戸浩樹5 加茂和志5 笠崎萌加5 酒井克巳5 渋川佳南子5 古橋清夏5 古橋沙也加5 藤岡碧海5 三浦鳩平5 村田直己5 山内優歩5

フラッシュ暗算合格者

(10月20日までの1ヶ月間)

- 5段** 大内峻聖
- 3段** 盛井元仁
- 1級** 木村理仁 野村まゆ子 山下湧
- 2級** 岡留陽花 田中友子 中越菜摘
- 3級** 熊田星麗 湊結子
- 4級** 熊田星麗 浅田麻椰 有本華帆
小石恭馬 四宮彩花 村田直己
吉田魁馬
- 5級** 熊田星麗 有本華帆 今井麻奈未
風井悠希 塚本裕策 藤岡碧海
- 6級** 熊田星麗 塚本裕策 西島朝香
西本匠吾 中越菜々子
前西かえで 村上小晴
- 7級** 熊田星麗 塚本裕策 西本匠吾
中越菜々子 加地優真 吉永灯
- 8級** 塚本裕策 中越菜々子 加地優真
吉永灯 川瀬雄登 小西真雪
沼田創史郎 森岡賢一
- 9級** 中越菜々子 森岡賢一 石田優麻
堂野宗一郎 中野楽 萩森英明
三田村航季
- 10級** 森岡賢一 中野楽 植田成海

飯田海地

創意工夫

同じことでも他人に言われてから気をつけてやることと自分で気づいてやることとでは、身につき方が全く違います。助手席だと覚えられない道が運転すると覚えられることと同じです。

ここ数ヶ月、初歩教材PERFECTの4を終了すると、学年に関係なく全員が2桁から3桁のたし引きのまとめを行います。基準タイムをクリアして、かつ九九を完全に習得している生徒からかけ算の指導に入りますが、なかなかこのまとめ練習から抜け出せない生徒がいます。

九九を不完全なままかけ算の練習に入ると、かけ算のやり方を習得する前に、九九を思い出したり九九表から目当ての九九を探すことに疲れてしまうことから、あえて無理にかけ算には進ませていません。

さて、『抜け出せない』と書くと、そこに居続けることが悪いようなイメージを持たれるかもしれませんが、実は結果的にこれが大成功しています。たとえばフラッシュで言うと、2級や3級に合格する人たちが続々と出てきたのです。

まとめ練習のシステムは、他の仲間と競争しつつも、自分の過去の記録とも競争するというものです。各自の自己ベストタイムに40秒を加えたタイムをそれぞれの『限界タイム』とし、限界タイム内で計算終了した人の中で最少失点者を優勝者としています。

限界タイムを超えてしまうと、競技に参加できませんから毎回自己ベストタイムを更新しようと、生徒達はそれ

こそとことん無駄を省いた動作に徹しようとしています。かといって、オーバースピードになって失点を重ねるとこれまた蚊帳の外状態になりますから、みんな必死です。

そんな練習を続けている中で、飛行機が滑走路を突き進み、やがては自然に飛び上がらざるを得ないような速度に達するかのように、そろばんで弾いているのか、暗算で計算しているのかがわからなくなるような瞬間に達する生徒が出てきて、暗算で計算し出します。するとそれを見ていた生徒達も、自分から、進んで、勝手に、独りで、暗算でやり出すのです。

暗算でやってみたり、少しチャレンジして難しければすぐにそろばんで計算したりする様子を見るにつけ、大きく道を外さない範囲で生徒達が自由に試行錯誤を繰り返し、創意工夫を重ねる時間を大切にしたいとつくづく思います。すでに多くの人が見知っているものでも、自分で発見するまでの努力や成果に少しも無駄なものはありません。余計なことを親切心からさも指導しているような気になって自己満足に陥ることの無いよう、自戒しつつ生徒に接しています。

実は私も試行錯誤

といいながら、実は私自身も試行錯誤の毎日です。

今回の段の試験に向けて、数人の生徒に次のような指示を出しました。

たとえば、かけ算の5段を目標にします。5段を取るには、6桁×5桁の問題を計算して答を記入するのに1題16秒平均です。間違えることも想定すると、1題15秒程度で多めの題数

を計算しておく必要があります。

そこで、今回の試験に向けての練習では4題分を58～62秒で計算する指示を出しました。

4題分と限定すると、たとえ4段程度の実力でも何とかクリアできます。しかし、4段と6段との差は、1分の集中を10分間持続できるかどうかの違いとなって現れてくるのです。

4段の生徒は自覚します。「要するに『ガマン』が必要なんだ」と。

するとビギナーズラックも手伝ってか、しばらくすると、6段分できるようになるから不思議です。でももちろん、一朝一夕で身には尽きません。この時点ではたまたま「できた」ことが連続しただけなのです。

しかし生徒の頭にはっきりと「できた」という感触が残ります。すると今度はその感触を求めて努力を繰り返すようになります。こうして練習を続けているうちに、幸運に頼らなければならなかった得点が、実力で出せるようになってくるのです。

と、断定的に書いてみましたが、本当は、たぶんそうなるだろう、そうなると良いな、という仮説と希望のもとに練習課題を与えたのが今回の試験でした。

練習方法の改善や実力の向上には、終着点はありません。「今の方法が最善、でも明日には次善になっている」というような向上心を持ち続けたいものです。

書道教室から～加藤真月

10月の上旬に、様々な展覧会の審査もされておられる糸見溪南先生の個展を見に行ってきました。糸見先生は、

テレビ、「必殺仕事人」の題字も手がけておられる有名な先生です。会場は大阪美術倶楽部新館だったのですが、会場の雰囲気は他の展覧会の所狭しと作品が飾られているのと違い、会場の奥に和室があり、作品に添えられているお花にいたるまで、隅々までがすばらしい雰囲気の展覧会でした。他の展覧会では抹茶を出してくださる展覧会に行ったこともあり、書だけでなく、お茶やお花などの教養も必要だと感じます。将来、私が還暦を迎える頃には、このような個展が開けることを目標にしたいと思いました。

さて、11月号では、毛筆1級以上の方対象の毛筆昇段試験があります。対象の方は、月謝袋に受験料の400円を同封してください。作品〆切は12月10日ですので、12月の1回目のお稽古まで練習できます。硬筆の昇段試験に続きますが、今回は5月になってしまいますので頑張って練習したいと思います。可否は2ヵ月後にわかります。わかりましたら、この塾報でお伝えします。

ご質問がありましたので、改めて説明させていただきますが、硬筆・毛筆の昇段試験とも、半年に一回で、級の時と違い、毎月昇級するチャンスがあるわけではありません。つまり、毎月昇段試験代400円が必要になるわけではありません。また、1級以上になると、毎月出品した課題の評価としてA B Cの評価がつきます。これは、Aが一番良く、その次はB、Cという順番です。あくまで、その月に出品した作品での評価です。昇段試験はA B Cどのランクでも受けることができます。

昇段試験の可否は、課題を本部の先生が評価して合格かどうか判定されます。私が判定するものではありません。合格した際の認定証は希望者に限り、1枚600円で本部より取り寄せています。ご希望の方は600円を添えて、その旨お伝えください。取り寄せまでに多少時間がかかりますのでご了承ください。

認定書は毎回合格のたびに申し込まれてモチベーションをあげて頂くもよし、書道教室をやめられる時に、申し込まれるのも良しかと思います。もちろん、申し込まなくても結構です。

11月は23日の祝日もお稽古があります。火曜日・金曜日どの週も11月はお休みがありません。

さて、11月号の段位は下記の通りです。

	毛筆	硬筆
・幼稚園		
小西 美琴	10級	8級
市川 大誠		新9級
・小1		
角南 佳祐	9級	4級
・小2		
今井 麻奈未	初段B	2段B
加藤 大騎	初段	初段
沼田 賢志郎	9級	4級
東 美玖	1級A	1級A
土橋 乙心	7級	1級C
小西 真雪	8級	5級
松下 菜々	9級	7級
九十九 光希	新9級	新7級
・小3		
蜂谷 圭将	四段A	四段B
辻尾 菜々	初段A	三段B
金本 大夢	二段A	二段A
上野 舞華	二段A	三段B
沼田 創史郎	4級	1級B
中西 佑輔	6級	1級A

松下 真之介	8級	8級
尾碕 初菜	新9級	新8級
・小4		
市川 未悠	二段B	三段B
金本 三夢	二段B	初段B
吉富 千夏	二段B	三段B
大槻 遥香	初段B	1級B
岸本 健志	1級B	1級B
山下 彩乃	初段B	初段B
東 優里	初段A	1級A
園田 有咲	5級	2級
山口 愛未	6級	4級
桑原 唯衣	10級	7級
・小5		
和田 佳己	1級B	1級B
上野 豪斗	初段B	三段A
藤原 弥咲	二段C	二段B
木村 美佑	初段	初段A
下垣 このみ	1級B	二段B
中井 美咲	二段B	四段C
黒田 佳花	初段B	初段A
黒田 幸花	初段C	初段B
園田 沙耶香	5級	2級
寺西 匠人	新9級	新8級
・小6		
下垣 大吾	1級B	二段C
荒木 幸菜	1級A	1級B
桑原 麻衣	5級	4級

◎先月号でお知らせいたしました『探偵ナイトスクープ』の放送は10月22日でした。ご覧になった方はいらっしゃいますでしょうか。

◎運動会が終わりました。徒競走やリレーで転ぶ子どもが少なくなったように思いますが気のせいでしょうか。

自分の力以上のものを出そうとして欲ばかりが前面に出て足が付いていかずにコロリン、というのが大抵のパターンですが、みんな、欲が浅いという

か分をわきまえているというか、なにかサラッとしているような印象を受けました。これも、今の時代、なのででしょうか。

ウチの長女が幼稚園年長のとき、私は幼稚園の後援会会長を仰せつかっておりました。『後援会のおじさん』として運動会で次のような挨拶をしました。「一生懸命に走ったり踊ったりすることで、自分が楽しくなるだけでなく、周りで応援している人たちもうれしい気持ちになります。自分がかんばると、他の人たちに喜びをあげることになるのです。皆さんはこんなにすばらしい力を持っているのです」

おじさんとしては、どこまで通じたか心配ですが、わずか数年前に産声を上げたばかりの赤ん坊が四肢を存分に伸ばして駆け回る姿は、ただそれだけでほほえましいものです。

◎現在書店に並んでいます小学館発行『edu』に、当教室の酒井克巳くんが出ています。「陰山メソッド」というコーナーです。編集部から紹介の依頼があり、いつも送り迎えをして下さっている酒井くんのお母さんをお願いして出てもらいました。ご希望の方はいつでも紹介しますので、遠慮無くご連絡下さい。良い思い出になります。家にも取材が入ります。何度も書きますが、一時的とはいえ家が片付きます。

◎『edu』の2010年9月号ではそろばん特集が組まれました。まだご覧になっていらっしゃらない方は教室に貸し出し用のeduがありますのでお申し出下さい。